

八戸市次世代育成支援行動計画 後期計画 平成 26 年度実施状況 質問・意見に対する回答

(資料 1-1 P.4)

| | |
|----------------|---|
| 事業番号 48 | 事業名 母子健康手帳の交付 |
| 質問 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・母子手帳交付の際に、八戸市保育連合会として保育施設ができる子育て支援ということで「ナーサリーママ」システムのパンフレットを交付してもらっています。妊娠中から子育てに関する相談や親の保育体験、保育や教育の情報提供等受け入れ態勢を整えているのですが、なかなか活用されていない現状があります。 ・保育所やこども園の社会的役割として今後も力を入れたいと思っていますが、担当部署としてこれらの活用に対し何らかの助言や働きかけをし、保護者の育児不安を取り除くような対応をして頂いていますでしょうか。 ・特にこども園には、子育て支援が義務付けられたことから、責任を果たしたいと思っています。今後の協力も含め部署としての対応をお知らせください。 |
| 回答 1 | <p>事業担当課 健康増進課</p> <p>(回答：こども未来課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園は子育て支援の機能を持ち、様々な子育て支援事業を行っております。その中でも、地域の子どもの養育に関する相談は、すべての認定こども園で実施しており、また、八戸市においては、県内でも認定こども園の数が最多であることから、子育てに関する相談先が充実していると考えております。 ・このような中で、八戸市保育連合会が独自に実施しているナーサリーママシステムは、子育て支援を利用するきっかけとして、出産前の段階からの支援としては、有効な手段であると認識しております。 ・そのため、現時点では、母子手帳交付時に、健康増進課でパンフレットの配布を行っておりますが、今後、こども未来課でのパンフレット常設や、子育てサイトへ掲載するなど、周知について協力して参ります。 ・その上で、各事業者におかれましては、妊婦や保護者が気軽に訪ねることができる相談場所として、地域に向けたPRを継続して行っていただきたいと思っております。 ・また、八戸市保育連合会におかれましても、ホームページにこのシステムを掲載し周知して下さるよう、お願い申し上げます。 |

| 事業番号 204 事業名 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解を深める交流教育事業 | | | | |
|--|---|---|--|--|
| 質問 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容をもう少し具体的にききたい。 ・結構長く続けてきた事業だと記憶しているが、その中で工夫や改善したことなどあれば教えてください。 | | | |
| 回答 2 | 事業担当課 こども支援センター（総合教育センターから変更） | | | |
| | 事業名 | 主な内容 | 参加人数 | 期日・場所 |
| | 第 43 回 ふれあい 遠足 | 自己紹介 学校紹介活動 班ごとのふれあい遊び 自由遊び ダンス | 小学校 32 校 児童 163 名 教員 58 名 保護者 107 名 中学校 17 校 生徒 76 名 教員 30 名 保護者 12 名 | 26 年 7 月 4 日（金） いちょう公園 |
| | 第 32 回 ふれあい 宿泊学習 | 制作活動 自由交換会 キャンプファイヤー ドッジビー大会 昔遊び 入浴・宿泊 | 小学校 26 校 児童 129 名 引率者 49 名 中学校 15 校 生徒 60 名 引率者 28 名 | 26 年 11 月 13 日（木） ～14 日（金） 種差少年自然の家 26 年 11 月 6 日（木） ～7 日（金） 種差少年自然の家 |
| | ふれあい 作品展 | 市内小・中学校と県立特別 支援学校の児童生徒の作 品を展示 | 小学校 33 校 191 名 中学校 22 校 87 名 特別支援学校 4 校 214 名 | 26 年 12 月 12 日（金） ～14 日（日） 八戸市美術館 |
| | 文集「は まぼうふ う」第 43 号発刊 | 市内小・中学校と県立特別 支援学校の児童生徒の作 文、工作・絵画等の写真を まとめ文集として発行 | 430 冊発行 | 27 年 2 月下旬 |
| | （工夫・改善点等） <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会主催で実施していた事業を八戸市特別支援教育研究会へ委託することによって、より児童生徒の実態やニーズに応じた活動ができるようにしています。 ・ふれあい宿泊学習は小・中学校を別に実施しており、ふれあい遠足には、小学校児童・中学校生徒の他、希望する保護者も参加していただいております。遠足については、平成 20 年度では 277 名の参加者でしたが、翌年 300 人を超え、26 年度には 449 名の参加者となり、年々増加しております。27 年度より委託料を改善し、人数増加へ対応したところです。 ・26 年度、児童生徒や保護者の交流を図る発達の段階に応じた活動とするため、担任等へアンケートを実施しました。事前打合せの時間を十分に確保し、内容の工夫・改善をして活動が行われています。また、八戸市美術館など学校の外で「ふれあい作品展」を行うことは、互いの作品を見に行くという児童生徒の校外学習の場となり、交通機関の利用について勉強する良い機会となっています。そして、この作品展及び文集「はまぼうふう」は、特別支援教育に対する理解を深めていくことにも役立っております。 | | | |

| | |
|--|---|
| 事業番号 224 事業名 八戸市空き家等の適正管理に関する条例の施行 | |
| 質問 3 | ・八戸市の空き家の状況をお知らせください。 |
| 回答 3 | 事業担当課 建築指導課 ・総務省統計局により 5 年ごとに実施されている住宅・土地統計調査の平成 25 年の調査結果によると、当市の総住宅数は 107,550 戸、うち空き家数は 16,520 戸、空き家率は 15.4%となっております。 ・そのうち、賃貸用、売却用、別荘等以外のもので、腐朽・破損があるものは 1,900 戸となっております。 ・現時点で市内全域の空き家調査はしておりませんが、危険空き家若しくは危険空き家予備軍の数はおよそこの程度（1,900 戸程度）あるものと考えております。 ・対応としましては、平成 25 年に「八戸市空き家等の適正管理に関する条例」を施行し、空き家所有者に管理意識を持っていただくとともに、周りに迷惑がかかっている空き家については、所有者や相続関係者に対し条例に基づき指導を行っています。 ・また、今年 5 月に「空家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されたことから、市としてどこまで対応していくのか、今後関係課と協議していく必要があると考えております。 |

| | |
|-----------------|--|
| 事業番号 61 | 事業名 1歳6か月児健康診査及び精密健康診査 |
| 事業番号 62 | 事業名 3歳児健康診査及び精密健康診査 |
| 事業番号 222 | 事業名 1歳6か月児及び3歳児精神発達精密健康診査 |
| 事業番号 223 | 事業名 未就学児ことばの教室相談事業 |
| 意見 | <ul style="list-style-type: none">・心身の発達に問題を抱えた子どもの早期発見、早期対応について、各施設は養護学校、教育委員会、保健師等と連携を取り対応しているところですが、保護者との連携がなかなかうまく取れない実情があります。・そこで「保育施設⇒保護者へ連絡を取る専門家を置き⇒そこから保護者や専門機関へつなげ適切な対応を取れるシステム」を早期に作る必要があると考えます（仙台式システム）。・年々増える「気になる子」への対応策として是非検討して頂きたい。・現在現場でも保護者へ伝える努力はしていますが、難しいものがあります。やはり専門家が適切に保護者に伝えるべきものと考えます。 |
| 市の考え方 | <p>事業担当課 健康増進課 (回答：こども支援センター)</p> <ul style="list-style-type: none">・こども支援センターは、学齢期を通じた子育て支援及び特別な支援の必要な子どもの療育と教育環境の充実を図るために、就学前からの早期発見、早期支援を含めた、総合的かつ継続性のある支援体制を確立することを目的として今年度4月に開設されました。・今年度開設してからの相談状況の4～9月までの総数は、1,293件で昨年の836件と比較すると約1.5倍の増加となっております。・こども支援センターを構成する教育相談部、専門指導部、適応指導部のうち、専門指導部は、就学に関する相談及び巡回相談を行っております。・こども支援センターとしては、子どものよりスムーズな小学校への就学を目指して、今後も健康増進課と連携を図りながら、「気になる子」の早期発見・早期支援について努めて参ります。 |